ぜんせき THE ZENSEKI

第7834号　月・水・金発行（祝日除く）　組合員 月1,728円　組合員外 月1,944円（消費税込）

6月29日（金曜日）　2018年（平成30年）

発行所
全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp

昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

骨太の方針2018　未来投資戦略2018

SSが地域インフラ拠点
新サービス創出目指す

国の経済財政運営の指針となる「骨太の方針2018」と、日本の成長戦略の指針となる「未来投資戦略2018」が15日に閣議決定された。東日本大震災や熊本地震のほか、昨年7月の九州北部豪雨、2月の北陸豪雪などで、エネルギー供給の〝最後の砦〟となるSSの重要性が石油と、その石油製品の安定供給基盤となっているSSの維持・強化に改めて証明されたことから、石油サプライチェーンの維持・強化など後押加え、SSの地域コミュニティインフラとしての機能強化を提示しししていく方針を示した。

2年前の骨太方針で初めて「国内の石油・LPガスの安定供給確保に向けたサプライチェーンの維持・強化等の取組を進める」と記載された。昨年は「平時有事を問わず」との文言が追加され、官公需への配慮などを通じて、いつどこで発生するかわからない大規模災害に備え、平時からのSSの維持・強化を図る方針を示した。

今年の骨太方針では、「平時有事を問わず、国内の石油・LPガスの安定供給確保に向けたサプライチェーンの効率的維持・強化、地域コミュニティインフラとしての機能強化等に取り組む」とした。

今回新たに「燃料供給拠点の地域コミュニティインフラとしての機能強化」という文言が追加され、SSを燃料供給拠点という位置付けから、多様な事業・サービスを提供する地域コミュニティインフラへの変貌や高度化を促す内容となった。

資源エネルギー庁の次世代燃料供給インフラ研究会が先ごろ示した報告書案では、SSが顧客のニーズに応え、多様な事業やサービスを顧客に提供するなど、SSの経営革新や〝稼ぐ力〟を強化していくため、個々の事業者の創意工夫に加え、国としてそうした取り組みを後押ししていく政策支援や保安規制の見直しの必要性などを提言した。

一方、未来投資戦略では同インフラ研の提言を踏まえ、「IoT（すべてのモノがインターネットでつながる）等を活用し、供給手法多様化や新サービスの創出を実現すべく、制度改正も視野に入れ、安全性等の検証を実施」を盛り込んだ。併せて、住民拠点SSの整備や需要家側への自衛的備蓄の推進も記載した。

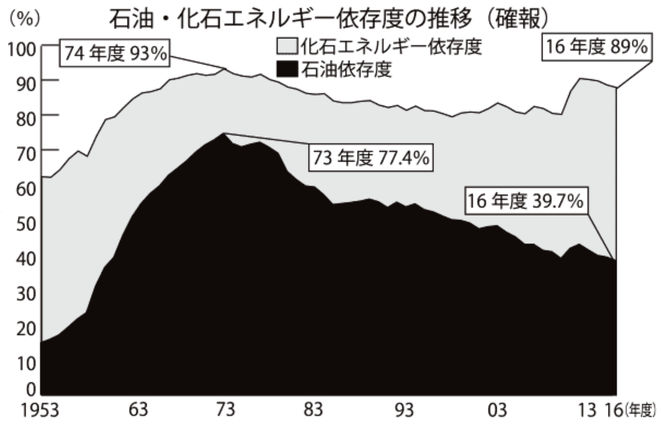
石油依存度4割弱に
16年度エネ需給実績
CO2 3年連続で減少

資源エネルギー庁が先ごろまとめた2016年度エネルギー需給実績（確報値）によると、最終エネルギー消費は、省エネなどの進展で前年度比1・3%減と6年連続で前年を下回った。企業・事業所他部門が1・9%減、運輸部門が0・8%減、家庭部門は猛暑厳冬が影響し電力を中心に0・6%増と唯一増加した。

一方、1次エネルギー供給に占める石油依存度は、原油価格が急落したものの、省エネの進展や燃料転換などで需要が抑えられ、前年度比1・0ポイント減の39・7%と4年連続で前年を下回り、1960年度（37・6%）以来56年ぶりの低水準となった。依存度の低下傾向はみられるものの、石油は依然として、1次エネルギー減で最大のシェアを維持するなど、その重要性は揺らいでいない。

化石エネルギー依存度は0・7ポイント減の89・0%と、4年連続で前年を下回ったが、依然9割近い高いシェアを維持している。非化石エネルギーについては、原発の再稼働が一部にとどまっているものの、政府の政策支援などもあって水力や再生可能・未利用エネルギーは増加傾向にあり、非化石エネルギーシェアは0・7ポイント増の11・0%となった。

エネルギー起源CO2排出量は、前年度比1・7%減と3年連続で減少し、13年度比では8・7%減。東日本大震災後の原発停止などの影響で、13年度まで4年連続で増加したが、その後は需要減に加え、再生エネの普及や原発再稼働による電力の低炭素化の進展で減少傾向にある。

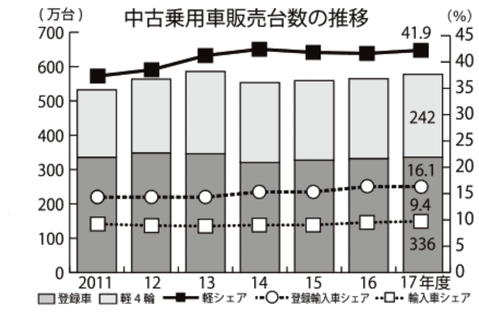


17年度中古車販売
2.3%増販577万台

中古車市場が堅調に推移している。日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合が集計した2017年度（17年4月～18年3月）の中古「乗用車」登録（販売）台数は、前年度比で登録車が1・2%増の335・7万台（3年連続増）、軽4輪が3・8%増の241・8万台（2年連続増）、合計2・3%増の577・5万台（3年連続増）で、軽シェアは0・6ポイント（P）上昇の41・9%となった。

そのうち中古登録車に占める輸入車（逆輸入車含む）台数は4・0%増の54・1万台（3年連続増）と好調が続いており、販売シェアも0・4P上昇し16・27・3万台、軽4輪が5・6%増の19・4万台、合計で4・1%増の46・6万台（0・6P上昇の41・5%）と堅調を維持。登録車は4ヵ月ぶり増、軽4輪は2ヵ月連続増、合計でも2ヵ月連続増となっている。

また、今年度に入っても4月は登録車が微減の26・6万台、軽4輪が2・9%増の19・8万台、合計で1・2%増の46・5万台（軽シェアは0・7P上昇の42・7%）、5月も登録車が3・0%増の4・5万台と2ヵ月連続で増加しており、販売シェアも4月が0・4P上昇の16・2%（軽4輪を含めると0・1P上昇の9・3%）、5月は0・6P上昇の16・5%（0・3P上昇の9・7%）だった。



論説

OBD車検をどう捉えるか

国土交通省は先ごろ、「車載式故障診断装置（OBD）を活用した自動車検査手法の在り方検討会」に関する中間とりまとめを公表した。昨年12月から5回にわたって検討会を開催し議論を重ねてきたもので、今後は中間とりまとめの方向性に従って専門家WGを設置し、検査手法の詳細を煮詰めていく。

自動ブレーキなど自動運転技術が急速に進化・普及する中、故障などによる誤作動が重大事故を引き起こす可能性があるため、定期的な機能確認の必要性が指摘されている。ただ、現在の自動車の検査（車検）は自動運転技術に用いられる電子装置の機能確認には対応していないため、新たな検査手法として、OBDを活用した車検導入が検討されてきた。

中間とりまとめではOBDを活用した検査手法として、不適合となる故障コード（特定DTC）を自動車メーカーから提出させ、この情報を検査に使用するスキャンツール（法定スキャンツール）に格納。法定スキャンツールを接続して特定DTCが検出されれば検査不合格という流れを示している。

検査対象は2021年以降に販売される乗用車、バス、トラックの新車で、検査開始は24年を目途としている。検査の対象となる装置・機能については、自動ブレーキなどの運転支援装置や自動車線維持などの自動運転機能、排ガス関係装置など。電子装置の不具合による事故は現実に発生していることから、国はOBD車検導入による成果に期待を寄せている。

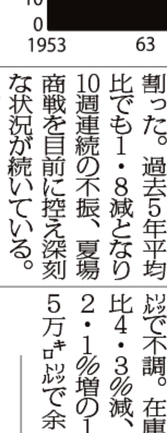
ただ、OBD車検に対する現時点でのSS業界の関心は決して高くない。「ぜんせきweb」6月アンケートの結果によると、「OBD車検という言葉を知っているか」との問いに対して、「知らない」が73%を占めた（詳細は3面参照）。検査の開始は早くても5年以上先のことだし、そもそも検査そのものはSSには直接関係しない。関心が低いのは当然ともいえる。

しかし、それで本当に大丈夫だろうか。自動ブレーキの新車搭載比率はすでに70%。国は20年までに90%超えの目標を掲げる。先進技術を搭載した車が次々に巷に溢れ出してくる。そうした車の定期的な機能確認のために導入される検査手法「OBD車検」をどう捉え、どう取り組んでいくか。「関心がない」では済まされないいくつもの重要なカギが、そこには隠されているような気がする。

7月テーマ
ぜんせきwebアンケート
油外収益について

「ぜんせきweb」アンケート」は、系列仕切価格と業転価格についてお聞きしています。終了は17日です。月次テーマは「油外収益」について。現在の油外収益の柱や、これからSSで油外収益に取り組む際のネックなどについてお聞きします。

定例の「SS業況アンケート」と同様、1日より7月分では、1日より7月分の人気ノベルティ「ファブリーズイージークリップ（非売品）」（写真）をプレゼント。車の中の嫌なニオイを消臭して快適空間へと誘う、車専用消臭芳香剤。コンパクトなクリップタイプです。



ご協力ください。

回答者の中から抽選で5社に、共同事業取扱の人気ノベルティ「ファブリーズイージークリップ（非売品）」（写真）をプレゼント。車の中の嫌なニオイを消臭して快適空間へと誘う、車専用消臭芳香剤。コンパクトなクリップタイプです。

石連週報 6月4週
ガソリン出荷不振続く

石連週報による6月第4週（17日～23日）のガソリン出荷量は、前週比8・7%増、前年比1・3%減の92・6万キロリットルで前年実績を割った。過去5年平均比でも1・8減となり10週連続の不振、夏場商戦を目前に控え深刻な状況が続いている。

ガソリン生産量は前週比5・6%増の88・4万キロリットルに上昇したが、6週連続で100万キロリットル台を割り込んでいる。在庫は前週比3・9%減、前年比9・5%減の167・5万キロリットルに取り崩され、15週連続の低水準。

軽油出荷量は前週比1・8%増、前年比6・9%減の61・8万キロリットルで不調。在庫は前週比4・3%減、前年比2・1%増の149・5万キロリットルで余剰が続く。灯油出荷量は前週比8・1%増、前年比11・5%減の9・9万キロリットル。在庫は前週比1・3%減、前年比0・1%増の152・11万キロリットルで余剰が継続している。（2面にDATA）

JXTG出光・昭シ
G卸0.5～1円下げ

特約店筋によると、前週比でJXTGは28日からの基準仕切りを2週連続の値下げで累計幅1円安となっている。

一方、出光は28日から週決め仕切りを全油種ともに1円値下げ、全油種ともに値下げは3週ぶり。同じく昭シェルも28日からの週決め仕切りを全油種1円の値下げした。全油種いずれも3週ぶりの値下げとなった。

原油処理計画
内需向け9%増

7～9月・出光

出光興産は7～9月の原油処理計画を3製油所（北海道・千葉・愛知）合計で前年同期比3%増の708万キロリットルとする。うち内需向けは9%増の678万キロリットル、輸出向けが54%減の30万キロリットル。燃料油需要はトラック向けの輸送用が堅調に推移する一方、引き続き小型車や軽自動車、HVなどの省燃費車の普及から前年を下回る水準を見込んでいる。

原油処理は、夏場の需要期に向けた安定供給を踏まえた水準としている。

4～6月の原油処理量は、当初、前年横ばいの590万キロリットルを想定していたが、ほぼ同水準の600万キロリットルとなる見込み。内需向けが5%減の548万キロリットル、輸出向けが3・3倍の52万キロリットル。

レギュラー小売
2週ぶりに下落

エネ庁週市況

資源エネルギー庁による小売価格調査（25日・消費税込み）レギュラー全国平均は0・1円値下げの151・9円と、2週ぶりに値下がりとなった。地域別では、0・6円高の愛知と鹿児島、0・3円高の福島と沖縄、0・2円高の秋田、埼玉、和歌山、佐賀、熊本など14県で値上がり。0・8円安の東京、0・7円安の青森、宮城、神奈川、山口、0・6円安の岡山など22都道県で値下がりし、11府県で横ばいとなった。ハイオクは162・7円と横ばい。軽油は0・1円安の130・3円。灯油は18リットル店頭、配達ともに横ばいの1668円、1814円。（2面に県別データと「今週の地域市況」概況）

杉森務氏が新理事長就任

JPEC

石油エネルギー技術センター（JPEC）は26日付で理事長交代を発表した。月岡隆理事長（出光興産会長）が退任し、杉森務氏（JXTGホールディングス社長＝写真）が新理事長に就任した。

今週のガソリン小売市況概況（6月5週）

	全体概況	ベンチマーク 前週	ベンチマーク 当週	備考 ※斜字はフル
北海道	⇘	￥152	￥152	*札幌市・地場・系列*
北東北	⇘	￥151	￥151	秋田市・広域・系列
南東北	⇘	￥146	￥146	*仙台市・広域・系列*
信越	⇘	￥148	￥148	新潟市・地場・系列
北関東	⇘	￥139	￥139	宇都宮市・異業種・PB
首都圏	⇘	￥139	￥139	印西市・異業種・PB
山静	⇘	￥150	￥150	*静岡市・広域・系列*
東海	⇗	￥143	￥143	鈴鹿市・広域・系列
北陸	⇒	￥138	￥137	福井市・地場・系列
京阪	⇒	￥149	￥149	大東市・子会社・系列
阪神	⇒	￥151	￥151	神戸市・地場・系列
山陽	⇘	￥149	￥151	岡山市・地場・系列
山陰	⇗	￥150	￥150	*米子市・地場・系列*
四国	⇘	￥154	￥154	*高松市・地場・系列*
九州北	⇗	￥155	￥153	*福岡市・地場・系列*
九州中	⇒	￥147	￥147	熊本市・広域・PB
九州南	⇗	￥150	￥150	宮崎市・地場・PB

⇑0.5円超上昇、⇗小幅上昇、⇒横ばい、⇘小幅下落、⇓0.5円超下落

ポンプあいうえお

▼シェイクスピアの「真夏の世の夢」は親と娘、その結婚相手らが登場する目まぐるしい展開の喜劇だ。娘は恋仲の青年がいるのに父親から別の男との結婚を強いられて、駆け落ちしようと真夏の夜、森の中に逃げ込む。娘と結婚したい男は娘らを追って森に入る▼そこで登場するのが、自由自在に魔法をあやつる妖精だ。森の中に入って来た人間を口バに変身させたり、目覚めた時に最初に見た人に恋をする〝浮気薬〟を塗ったり、やりたい放題。ストーリーはやがてこしく展開するが、最後は妖精の〝活躍〟によってみんなが幸せになる……▼SSの仕事は忙しい。客を迎えてアイランドに誘導し、給油する。その合間には車の状態を見て、必要ならタイヤ交換やコーティングを勧めなくてはならない。整備・車検や車販の営業もしたい。観光・レジャー客から道順やお勧めスポットを聞かれることも珍しくない。常に客との良好なコミュニケーションを求められる。SSの仕事は実に多様で、知力と体力、そして情熱が求められる。〝マニュアル人間〟では務まらない▼夏至を過ぎて、間もなく夏本番を迎えるこの季節はスタッフにとってはつらいシーズンの到来だろう。アイランドを走り回るスタッフを見ていると、みんなの幸せのために森の中を忙しく飛び回る妖精の印象に重なる。

きょうの紙面

2面　今週のガソリン市況
■DATAコーナー＝原油価格、石油製品先物情報、週動向調査、石連週報
3面　webアンケート／現物市場・5月
4面　農林漁業部会特集①

TMC TOMINAGA MFG CO
“燃料供給システム”の明日に取組む
災害時・停電時に力を発揮!
緊急災害時用燃料油ポンプ
「住民拠点SS整備補助事業　緊急可搬式ポンプ」対象製品
◎ 緊急車両への給油
◎ 暖房用灯油の注油
◎ A重油にも対応

http://www.kyoto-tmc.co.jp

吸引ホースを地下タンクに入れペダルを踏むだけ
停電時配管破損時でも給油が可能
足こぎ式なので大量給油もスムーズ、ラクラク
株式会社富永製作所　〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88　営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-1373
仙台営業所 ☎(022)287-9311 FAX(022)287-9312　東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180　関西支店 ☎(0774)41-3443 FAX(0774)41-3444
広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606　高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139
福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118　事業所・代理店／全国主要39都市

弱さ散見も小康続く

今週のガソリン市況　6月第5週

東北　ボトム下降で一部価格差拡大

◎北海道…札幌はセルフ151円程度、フル152～4円、安値量販セルフ149・8円表示で6月第1週から横ばい。函館はセルフ151円程度、フル154円程度、アサヒ商会146・8円、モダなど148・8円表示。
◎東北…セルフ価格をみると、仙台市は下値がやや軟化し145～151円。青森市も下値軟化で143～153円。福島市は156円中心で横ばい。秋田市は146～8円、盛岡市は142～5円、山形市は137～155円でいずれも変わらず。
◎信越…新潟は新潟市内で148円前後中心。上越、長岡市内でセルフ148～150円程度、柏崎148円前後中心。
◎北関東…前橋・高崎はセルフ150円前後中心。栃木は県北セルフ146～9円前後、県央144～9円中心、県南145円前後。茨城は150円前後中心で推移している。
◎首都圏…埼玉はセルフ147円前後中心。千葉は139～147円程度。
◎山静…静岡市内はセルフ150円以上、県西部150～2円、東部150～2円中心。山梨はセルフ会員150円程度で推移。
◎東海…やや軟化。愛知はほとんど動きはないが、一部で2円程度値下げして隣接店との価格競争再燃の動きを見せ、セルフ現金145円前後が増えつつある。常滑のコストコ132円、隣接PBバロンパーク会員130円台が増えてきた。大分県は低価格店も140円台で推移している。
◎北陸…3県に展開するPBカナショクは136～141円のままだが、ミタニグループの各店が値下げに踏み切りほぼ同額で対抗。これに既存の安売りPBなども刺激されて北陸全体の市況が荒れ始めている。
◎近畿…横ばい傾向で、阪神方面は149・9円、現金132・9円は4週連続据え置き。三重は三重石商事が津の南が丘店で135円まで値下げし県内最安。PBクイックピット白子、伊勢は137円が続く。岐阜も値下げ店が目につき始め140円台前半の看板が増えつつある。
◎中国…セルフ価格は、山口市内で先週末から2円程度軟化し146～8円前後に。岡山市内は147～9円前後、鳥取県米子市内でも148～9円前後と横ばいでの推移が続く。
◎四国…セルフ価格は、高松市内で150円前後中心、高知市内は154円前後中心、徳島市内では141～3円前後といずれの地域でも横ばいでの推移が続いている。
◎九州…地域によって軟化が目立つ。福岡市中心部は153円前後が増え、郊外店の一部でも各種割引で150円を下回っている。佐賀、長崎県も140～151円、京阪方面は148～152円。京都は147～153円が中心で、滋賀は149～153円。奈良市は145～151円、和歌山市内は142～152円が中心。

北陸　PBに地場大手対抗し荒れ模様

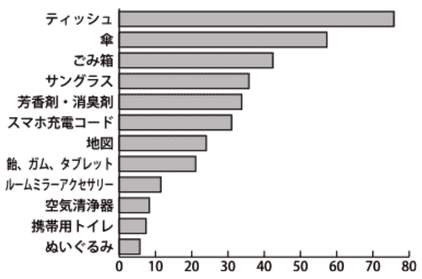
都市部でクルマ離れ鮮明／常備品はティッシュ

自動車意識調査

消費財に関するトピックスを情報提供しているプラネット（港区）が先ごろ公表した自動車意識調査結果（3～4月実施、ネットリサーチモニター約3700人回答）によると、「都市部ではクルマ離れ、地方では利用率95%超」と交通手段格差が広がっている実態が改めて浮き彫りとなった。

利用車両の保有者は「自分」53%（男性66%、女性33%）、「家族」21%（11%、36%）、「レンタカー」4%（5・3%、1・9%）、「会社」3・3%（4・9%、0・9%）、「カーシェア」1・3%（1・4%、1・1%）、「利用していない」26%（22%、32%）で、年代別では若年層ほど家族のクルマ利用者が多く、経営者・役員の2割は会社のクルマを利用していることもわかった。

一方、全国平均利用率は74%だったが、都道府県別にみると東京54%、京都61%、大阪65%、神奈川70%に対し、北海道77%、福岡78%、宮城81%、岡山91%、新潟92%、三重96%、福島・石川各97%と、地域格差が大きく、また車内の常備品は「ティッシュ・ウェットティッシュ」76%、「傘」57%、「ごみ箱」42%がトップ3を占めている（グラフ参照）。



局月　通9　交7～9　公営バス向け軽油入札　約4年ぶりの100円超

政令指定都市の交通局が実施する公営バス向け軽油入札（7～9月分）の落札結果によると、落札価格は前回よりも上回り、約4年ぶりにkl100円を上回る結果となった。地域別では神戸市の実施分は不調で7月分のみの実施となった。一方で落札者は依然として大手広域業者などに占められている状況が続いている。

公営交通事業協会に加盟する会員都市における政令指定都市の交通局を対象にした、市営バス向けの軽油落札結果（表参照＝京都市は落札期間が異なり表中に含まず）によると、神戸で落札予定価格を上回り不調となったが、指名業者間の見積もり合わせを実施し、7月分は2ブロックとも中川物産がkl101・4円で落札した。

なお、落札価格平均価格はkl約101・8円で、前回よりも8・7円高となった。値上がり幅の地域差が最も大きかったのは、仙台市南地区の10・5円で、最少は川崎市の井田営業所分で7円。klは10円を上回ったのは2014年度（10～12月分）以来、約3年9ヵ月ぶりとなる。当時は原油価格はほぼ90ドル半ば、為替は110円近くの水準で推移していた。

落札業者は大手広域業者や元売販売子会社が占め、地場中小SSに開放するよう求める声は高まっていきそうだ。

公営交通事業協会加盟社・落札結果一覧（7～9月，政令指定都市分）

発注者	発注地域	落札者	落札日	数量（kl）	落札価格（円/kl）
仙台市	北地区	コスモ石油販売	6月21日	964	101.8
	南地区	北日本石油		849	103.0
東京都	Aグループ	日本石油販売	6月12日	1,713	102.1
	Bグループ			1,247	103.5
	Cグループ			1,970	103.8
	Dグループ			2,133	103.8
横浜市	第1ブロック	中日本商事	6月20日	2,425	101.6
	第2ブロック			670	101.6
川崎市	上平間営業所	日本石油販売	6月20日	328	101.3
	塩浜営業所			458	101.3
	井田営業所			232	100.8
	鷲ヵ峰営業所			526	101.8
名古屋市	（ア）ブロック	中日本商事	6月7日	1,565	100.9
	（イ）ブロック			1,667	100.9
	（ウ）ブロック			1,480	101.3
神戸市	その1	中川物産	6月22日	264	101.4
	その2			448	101.4
北九州	－	－	6月25日	160	100.4

注1）落札価格は小数点第1位まで表示（消費税抜き、軽油引取税込み）
注2）神戸市と北九州市は7月分のみ
注3）北九州市の落札業者は7/10付公報にて公開予定

キュー太郎　浜坂高一朗

明日への技術と信頼のサービス
TATSUNO

全石連共同事業部　９月から国産ロール紙値上げ

秋期キャンペ活用を

全石連の共同事業斡旋商品である国産ロール紙が、９月１日から値上げとなります。

使用されている染料の深刻な供給不足が原因で、同業他社同様、値上げに踏み切らざるを得ない状況となりました。仕入先との交渉の結果、主力商品のＣ型（品コード：652）は１巻あたり3.5円値上げして100円となります。ほかの国産ロール紙は2.5円から5.5円の値上げとなります。ご理解いただければ幸いです。

一方、今年も９月から11月までの３ヵ月間、秋期増強キャンペーンを実施しますが、Ｃ型（品コード：652）は10円引き、ほかの国産ロール紙は５円引きの特別価格でご提供する予定ですので、組合員の皆様には、ぜひともこの機会をご活用ください。

なお、輸入ロール紙につきましては、当面は価格改定の動きはありません。

DATAコーナー

■石油先物市場・６／28
△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：￥／KL

東京商品取引所（京浜商上：１枚＝50KL）

16：30現在	前日比	限月	16：30現在	前日比
（前日出来高1,510枚）		ガソリン	（前日出来高4枚）	
64,200	△1,450	⑧限月	64,500	△1,000
63,730	△1,370	⑨限月	63,000	0
63,380	△1,350	⑩限月	62,000	0
62,960	△1,370	⑪限月	62,000	0
62,550	△1,350	⑫限月	61,000	0
62,260	△1,190	①限月	62,990	△1,990
（前日出来高491枚）		灯油	（前日出来高5枚）	
67,650	△1,210	⑧限月	66,000	0
67,340	△1,340	⑨限月	66,000	0
67,330	△1,380	⑩限月	68,500	△1,000
67,400	△1,400	⑪限月	68,500	△1,000
67,300	△1,440	⑫限月	68,500	△2,000
67,250	△1,400	①限月	69,000	△2,500
（前日出来高－枚）		軽油		
67,200	0	⑧限月		
66,900	0	⑨限月		
66,600	0	⑩限月		
66,300	0	⑪限月		
66,000	0	⑫限月		
65,700	0	①限月		

中京石油市場（伊勢湾油槽所：１枚＝20KL）

原油指標

		前日比
国内指標	$／B	72.81（△0.42）
	￥／KL	50,781（△435）
WTI	$／B	70.53（△2.45）
	￥／KL	49,195（△1,846）

■ＳＳ店頭市況週動向調査・６／25

レギュラー	（単位：￥／L、↑値上げ、→同値、↓値下げ）					
北海道	152.9 ↓	静岡	152.6 ↓	鳥取	151.2 ↑	
青森	150.2 ↓	山梨	153.0 →	島根	154.7 ↑	
岩手	149.8 ↓	愛知	150.3 ↑	山口	151.5 ↓	
宮城	150.0 ↓	三重	151.7 →	徳島	144.6 ↓	
福島	153.3 ↑	岐阜	152.7 ↓	高知	154.0 →	
秋田	150.9 ↑	富山	151.6 ↓	愛媛	153.6 ↓	
山形	153.1 ↓	石川	150.1 ↓	香川	149.9 ↓	
新潟	150.1 →	福井	152.3 ↓	福岡	153.5 ↓	
長野	155.3 ↓	滋賀	150.8 ↑	大分	156.3 →	
群馬	150.3 ↓	京都	154.3 →	佐賀	156.5 ↑	
栃木	150.0 ↓	大阪	151.5 →	長崎	160.7 ↓	
茨城	149.0 ↓	奈良	150.3 ↓	熊本	154.1 ↑	
千葉	148.4 ↓	和歌山	151.3 ↑	宮崎	152.0 ↑	
埼玉	148.0 ↑	兵庫	150.9 ↑	鹿児島	157.9 ↑	
東京	151.7 ↓	岡山	148.3 ↓	沖縄	156.9 ↑	
神奈川	149.6 ↓	広島	150.2 ↑	全国	151.9 ↓	

■国内供給統計（石連週報）・６月第４週末　（単位：千KL、%）

	東日本	西日本	合計	前週比	前月比	前年比
①原油処理量	1,755.0	1,005.6	2,760.6	98.5%	90.6%	88.1%
②製油所稼働率	71.5	68.9	70.5	▲1.1	▲7.3	▲9.5
③石油製品在庫量						
ガソリン	877.3	797.5	1,674.9	96.1%	94.9%	90.5%
灯油	1,068.5	452.9	1,521.4	98.7%	100.6%	100.1%
軽油	761.5	733.0	1,494.5	95.7%	102.2%	102.1%
Ａ重油	447.1	305.9	753.0	100.8%	98.9%	97.3%
６油種計	4,822.4	3,700.5	8,522.9	97.1%	98.5%	96.6%
④製品出荷量推計						
ガソリン	560.3	365.5	925.8	108.7%	104.3%	98.7%
灯油	60.4	38.9	99.3	108.1%	73.6%	88.5%
軽油	408.0	210.4	618.4	101.8%	84.9%	93.1%
Ａ重油	104.8	76.1	180.9	96.9%	88.3%	88.2%
６油種計	1233.8	833.2	2,067.0	105.1%	96.4%	93.4%

茨城　不可欠なコスト感覚

【水戸】茨城石商・協（宇田川仁一朗理事長）は26日に水戸市内で理事・支部長会を開き、今年度の各委員会の組織活動分担や推進事業・研修事業の内容を報告したほか、総代数や役員定数などの見直しに着手することを発表した。

宇田川理事長（写真）はあいさつで「今年度は仕切りの連続値上げが続いていたにもかかわらず、一部大手業者の数量販売による価格競争の影響を受け、値上げ分を完全に転嫁できていないSSも多い。コストコ問題も含め、採算経営は業界にとって不可欠」とし、一層の結束を呼びかけた。

生活、産業、地域を支える　石油の力SSの力　宮崎県宮崎市▶vol.290◀

愛知・豊川市内廃止SSから基準超の鉛　コスモ石油マーケティングは、2月28日に廃止（1965年3月1日開所）した愛知県豊川市御油町にある新御油SS敷地内の土壌・地下水に関する状況調査を実施した結果、「県民の生活環境の保全等に関する条例」に規定する土壌汚染等対策基準に定められた値を上回る鉛が検出されたと発表した。

汚染は地下水に接触しており、今後は県の指導を仰ぎながら適正に対応していきたいとしている。なお、鉛およびその化合物に関する測定結果は以下の通り。

▽土壌溶出量の最大値＝0・036ミリグラム／リットル（基準値＝0・01ミリグラム／リットル以下）・12調査地点中2地点で基準値超過。

▽土壌含有量の最大値＝790ミリグラム／キログラム（基準値＝150ミリグラム／キログラム以下）・12調査地点中1地点で基準値超過。

水島製油所に石油コークス発電設備　JXTGエネ

JXTGエネルギーはこのほど、倉敷市の水島製油所で石油コークスを燃料とするボイラ発電設備（写真）を竣工したと発表した。発電能力は11万KW。

購入電力の削減を図るとともに、余剰電力は新電力として販売することが可能となる。

石油流通課人事

▽商務情報政策局ヘルスケア産業課（資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課）秀嶋由理子▽製造産業局アルコール室（資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課業務二係長）道合翔平（22日付）

月々定額、〝維持〟の煩わしさから解放

「車を通じてお客様とのつながりを」と話す日高店長

全国に約1300店舗を展開するセルフ洗車チェーン「ラクのりショップ」を運営する南九州が宮崎市でオープンした「ラクのりショップ大塚店」は、同グループ初のメンテナンス付マイカーリース専門店だ。「月々の定額払いでお好きな新車に乗れます。まるごとメンテナンス付き」がキャッチフレーズ。SS業界の新しいチャレンジとして注目される。

ショップは宮崎市中心部から車で約10分。セルフ大塚SS奥にあるリニューアルしたばかりの事務所で日高徳店長が迎えてくれた。「4月にオープンしたばかりですが、予想を超える問い合わせがあり、手ごたえを感じています」と言う。

「ラクのり」の仕組みから聞いた。マイカーリースは、客が乗りたい車を選ぶことから始まる。一部車種を除いて国内のほとんどの車が対象。契約すると、一定の金額を払い続ければ、自動車税をはじめメンテナンス費用、車検費用、洗車費用の負担がなくなる。リース期間は7年と9年がある。契約満了後は希望すれば無償で車を自分の所有にして乗り続けることができる。一般的なカーリースは契約が満了すれば残価の支払いが必要だが「ラクのり」はリース代1年分の20%を返金する。「無償でマイカーorキャッシュバック」が、キャッチフレーズだ。

パーフェクト、セレクト、ベーシックという3コースがあり、パーフェクトの場合はタイヤやバッテリー、ワイパー交換も無料。燃料も特別割引がある。例えば、パーフェクトコース（月間走行距離千キロメートル）の場合、トヨタ「ノア」の毎月の支払いは5万5千円、「プリウス」なら4万5600円。軽自動車のダイハツ「ミライース」は2万1300円と、かなり安くなる。

「定額で車検や定期点検の心配がないオートフリーということで、女性の関心が高いようです。年代でいうと20～30歳が多く、50歳代以上の方にも反響があります。セカンドカーにしたいという主婦も多いですね。年金を受給しておられる方からは『最初に大きな費用がなく、定額なので助かる』という声をいただいています」と日高店長。

オープン式典には出光泰典社長自ら出席、テープカットした。店内には「クロッシング・ドリーム」という言葉が掲げられていた。夢が交差する、という意味だ。日高店長は「お客様の夢、私たちスタッフの夢、そして『ラクのり』の夢が交じり合い、溶け合って、もっと大きな夢が広がることを願っています」と元気な声で話す。

スピードもクオリティ
これまでの1WAY機では、スピード性は単なる処理能力というメリットしかありませんでした。「隼」はそのスピードを洗車のクオリティを高める方向にシフトし、開発技術を集中させ全てのコースでハイクオリティな洗車を実現しました。仕上がりを求める方にも、短時間での洗車を求める方にも対応したドライバー満足度を勝ち取る洗車機です。

余裕の処理能力がドライバーを満足させる!
今、セルフ洗車の歴史が動く!

コース別動作比較
ウォッシュコース　シャンプー コース
セルフ洗車機 1.5kW 最速設定 約1分35秒
旧1WAY洗車機 0.5kW 最速設定 約1分35秒
HAYABUSA 0.5kW 最速設定 約59秒
コーティングコースも時間を短縮
FK-2コース　FK-2 HYPERコース（コーティングコース）
セルフ洗車機 1.5kW 標準速度 約3分50秒
旧1WAY洗車機 1.5kW 標準速度 約3分50秒
HAYABUSA 0.5kW 標準速度 約2分35秒

洗車工程比較イメージ　選択コース FK-2 HYPERコース　追加オプション 高圧ジェット＋泡
一般的なセルフ/1WAY洗車機
高圧ジェット / 泡 / FK-2 HYPER
一般的な洗車機では、基本コースにオプションを追加すると洗車工程が上乗せされ洗車時間も余分にかかっていました。
HAYABUSA　短縮した時間を利用
高圧ジェット＋泡 / FK-2 HYPER
・処理台数を上げる
・さらにオプション追加し洗いを徹底強化する。
HAYABUSAは基本コースの時間が短縮したうえに、オプション工程も短縮する事が可能となり、大幅な時間短縮ができるようになりました。

1WAYコーティング ドライブスルー洗車機
HAYABUSA ～はやぶさ～

Beauty ビユーテー株式会社
■本社　名古屋市港区木場町2番地
TEL 052-692-2101（大代表）
http://www.beauty.gr.jp
ビユーテー本社事業所は環境管理に関する国際標準規格 ISO14001 の認証を取得しています。
洗車機製造部門タケウチテクノは品質管理に関する国際規格 ISO9001 の認証を取得しています。
E&I Ecology & Innovation
■Network of the Beauty
北海道支店　仙台支店　上信越支店　埼玉支店　東京支店　千葉支店
東海支店　北陸支店　大阪支店　広島支店　福岡支店　南九州支店

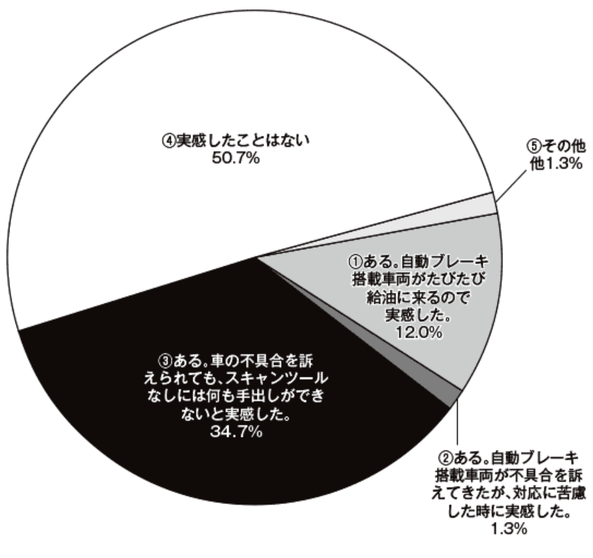
web アンケート　ZENSEKI

6月テーマ　車にかかわる先進技術について

「ぜんせきweb」読者アンケート・6月テーマ「車にかかわる先進技術について」の結果によると、「車にかかわる先進技術」と聞いて真っ先に思い浮かぶ言葉そのものを「知っているか」聞いたところ、「エーミング」については、「知らない」が77%と4分の3を占めた。「知っているが説明はできない」も20%に達し、「知っている。詳しく説明できる」はわずか3%にとどまった。

この背景はどうなっているのか。「SS店頭で『車にかかわる先進技術』を実感することはあるか」を聞いたところ、「実感したことはない」が51%と、予想通り半数以上を占めた。ただ、「実感したことはある。車の不具合を訴えられてもスキャンツールなしにはなにも手出しができないと実感した」も35%、「実感したことはある。自動ブレーキ搭載車両がたびたび給油に来るので実感した」も12%を占め、SS店頭が決して「車にかかわる先進技術」から隔離されている訳ではない現実が垣間見える。

最後に、スキャンツールの保有割合を確認した。最多は「持っていないし導入する予定もない」で47%を占めたが、一方で「以前から持っている」も33%に達したほか、「半年以内に導入予定」が12%で、合計すると45%に達し、SSにおけるスキャンツールの保有率の高まりも感じさせる結果となった。



連想1位は「自動運転」
先進技術の認知度依然低く

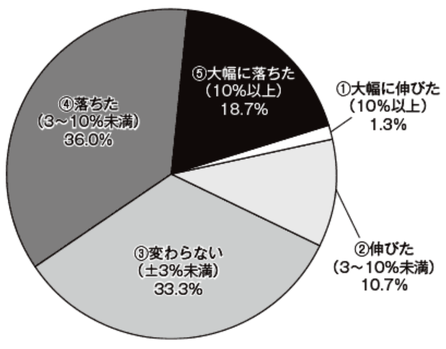
これに対して「つながる車」は、「知らない」は47%と半数は切ったものの、「知っているが説明はできない」が48%に達し、「知っている。詳しく説明できる」は5%にとどまった。また「OBD車検」については「知らない」が73%とやはり大勢を占めたものの、「知っているが説明はできない」は19%に後退する一方、「知っている。詳しく説明できる」が8%と増え、わずかではあるが関心の高まりも感じさせる。

5月1ヵ月平均のレギュラーガソリン卸価格（1キロリットル、系列仕切り、消費税抜き）は、最高145・0円（前月1・0円）、最低139・0円）、最低122・0円（116・5円）、平均価格は126・2円（120・6円）で、前月に比べて5・3円と大幅に値上がりし、仕切り、業転とも2ヵ月連続の大幅な値上がりとなった。

一方、5月20日時点でSSが購入もしくは売り込みがあったガソリン業転価格（1キロリットル、消費税抜き）は、最高133・0円（120・0円）、最低118・2円（114・5円）、平均価格は122・9円（117・6円）で、仕切価格同様、前月と比べて一気に5・3円と大幅に値上がりとなった。

ガソリン販売量は前年と比べてどうか（複数SS所有の場合は1SS平均）

油外販売は前年と比べてどうか（複数SS所有の場合は1SS平均）



5月業況

G小幅、油外大幅に悪化
卸平均は5.6円上昇の126・2円

業況・卸価格アンケートによると、回答者の属性は、旧JX43%、出光11%、昭和シェル15%、コスモ13%。旧東燃ゼネラル5%、その他13%。2者50%、3者47%、その他3%だった。

5月のガソリン販売量は前年比で「伸びた」4%（前月13%）、「大幅に伸びた」3%（3%）で合計で前月より9ポイントも減少。「落ちた」32%（41%）、「大幅に落ちた」8%（1%）でこちらは合計2ポイント減少と、明らかな上昇の気配が見られた4月と比較すると陰りが見える。

一方の油外は「伸び」「大幅に伸びた」11%（前月16%）、ガソリンとは比較にならないほど一気に悪化した。「大幅に伸びた」1%（4%）で、合計で前月より8ポイントも減少。「落ちた」36%（28%）、「大幅に落ちた」19%（4%）で、調査への回答数の59%（50%、3者47%、その他13%。2者ちた」19%（4%）で、調査への回答数の59%）と、前月より9ポインでこちらは合計で一気に23ポイントも増加と、ト増加した。

TOCOMウインドウ5月陸上121・2円

石油業界にとって透明性が高く、かつ公平・公正な卸価格指標の確立は悲願である。そうした中、東京商品取引所は昨年、公設・石油スポット市場TOCOMウインドウを開設した。さらに今年1月からは同ウインドウに『スタンダード2次基地（油槽所）陸上取引』を追加して取引の活性化を促進している。同ウインドウ、JOXなどスポット市場の5月実績などを紹介する。

陸上成約数量は3170キロリットル

TOCOMウインドウ5月実績

2018年5月の成約状況は前月比560キロリットル増加となり、合計成約数量5670キロリットル、件数56件だった。特に陸上取引における成約実績の増加が著しい結果となった。陸上の成約数量は3170キロリットルで（前月比1260キロリットル増）、成約件数は50件（前月比12件増）に達した。

出荷地別の成約状況では、初めて塩釜でガソリン成約（成約数量1020キロリットル、22件）も多数決まり、陸上における成約数量の約3分の1を占めた。

油種別の成約では、海上はガソリン（成約数量2500キロリットル、件数6件で推移した。一方、陸上はガソリン（成約数量2170キロリットル、件数37件）、灯油（成約数量510キロリットル、件数6件）、未課税軽油（成約数量490キロリットル、件数6件）で、累計すると成約数量3170キロリットル、件数49件となった。

ガソリン陸上121・2円に
スワップ5月限

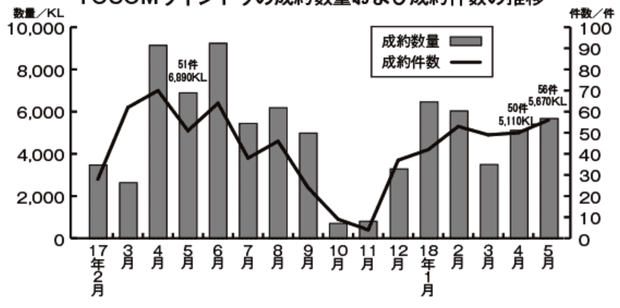
東京商品取引所はこのほど、先物市場・石油スワップ取引の5月限・最終決済価格を明らかにした。それによると、累計を見ると成約数量2500キロリットル、件数6件で推移した。一方、陸上はガソリン（成約数量2170キロリットル、件数37件）、灯油（成約数量510キロリットル、件数6件）、未課税軽油（成約数量490キロリットル、件数6件）で、累計すると成約数量3170キロリットル、件数49件となった。

TOCOMウインドウの5月平均価格は、陸上ガソリンが前月比6・6円高の121・2円、海上ガソリンは前月比4・2円高の120・3円となった。

JOXの5月実績は、成約数量が全油種累計で前月比1万7610キロリットル増、前年比7204キロリットル増の4万3588キロリットルとなった。主力のガソリン海上・京浜は前月比1800キロリットル減、前年比9千キロリットル減の7千キロリットルだった。

また、JOXのガソリン京浜・5月平均価格は前月比6・7円高の123・4円となった。

TOCOMウインドウの成約数量および成約件数の推移



TOCOMウインドウ成約実績

成約日時	商品	場所	価格（*円/kl）	価格（円/kl）※ガソリン税込	数量 [kl]
陸上取引					
5月1日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	64,500	118.3	30
5月1日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	64,500	118.3	20
5月2日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	64,100	117.9	100
5月2日	【ノンスタンダード陸上】灯油	堺	64,100	—	200
5月2日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	北九州	64,500	118.3	100
5月2日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	北九州	64,500	118.3	40
5月2日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	堺	65,000	—	20
5月2日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	堺	63,700	117.5	50
5月7日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	66,500	120.3	20
5月7日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	66,500	120.3	40
5月8日	【ノンスタンダード陸上】灯油	清水	66,000	—	100
5月8日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	65,200	119.0	100
5月10日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	66,000	119.8	30
5月10日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	66,840	120.6	50
5月11日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	66,000	119.8	80
5月11日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	67,000	120.8	20
5月14日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	66,500	120.3	50
5月14日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	66,200	120.0	20
5月16日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	67,200	121.0	30
5月17日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	sakai　海上可	68,400	—	200
5月17日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	68,500	122.3	20
5月18日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,400	122.2	60
5月18日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,000	121.8	40
5月21日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,400	122.2	30
5月22日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	八代	69,000	122.8	50
5月22日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,500	122.3	30
5月22日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	福井	69,200	123.0	200
5月23日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	清水	69,500	—	50
5月23日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	福井	69,500	123.3	100
5月24日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,500	122.3	30
5月24日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	68,500	122.3	50
5月25日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	68,300	122.1	70
5月25日	【ノンスタンダード陸上】灯油	清水	69,400	—	20
5月28日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	67,000	120.8	20
5月28日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	八代	66,700	120.5	90
5月29日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	67,000	120.8	20
5月30日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	67,100	120.9	200
5月30日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	清水	68,700	—	100
5月30日	【ノンスタンダード陸上】灯油	清水	68,700	—	100
5月30日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	清水	67,000	120.8	100
5月30日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	sakai	66,400	120.2	40
5月31日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	八代	70,000	—	20
5月31日	【ノンスタンダード陸上】未課税軽油	清水	69,000	—	100
5月31日	【ノンスタンダード陸上】灯油	清水	69,500	—	50
5月31日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	塩釜	68,400	122.2	40
5月31日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	福岡	65,500	119.3	30
5月31日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	小倉	65,500	119.3	50
5月31日	【ノンスタンダード陸上】灯油	阪神	69,000	—	40
5月31日	【ノンスタンダード陸上】ガソリン	八代	66,000	119.8	100
5月31日	【陸上】ガソリン横浜・川崎製油所	JXTG川崎/JXTG川崎キグナス	69,000	122.8	20
海上取引					
5月11日	【海上】灯油京浜(TOCOM指定二次基地)		65,700	—	200
5月11日	【海上】灯油京浜(TOCOM指定二次基地)		65,700	—	300
5月16日	【海上】ガソリン京浜(ref)	kyg	69,800	123.6	500
5月18日	【海上】ガソリン京浜(ref)	KYG	70,500	124.3	500
5月21日	【海上】ガソリン京浜(ref)	KYG	70,500	124.3	500
5月22日	【海上】ガソリン京浜(ref)	KYG	70,500	124.3	500

TOCOMウインドウ価格　系列仕切り換算（ブランド料3円＋運賃1.5円の場合）　125.7

	陸上4製油所平均						海上京浜				
	ガソリン	G税込	灯油	未課税軽油	A重油	LSA重油	ガソリン	G税込	灯油	A重油	LSA重油
1月平均	61,860	115.7	63,970	61,450	59,450	60,080	64,220	118.0	65,810	58,880	59,580
2月平均	60,970	114.8	64,380	61,240	59,150	59,650	65,470	119.3	71,890	60,780	61,180
3月平均	57,760	111.6	63,030	59,100	57,300	57,800	61,480	115.3	63,990	58,250	58,420
4月平均	60,830	114.6	62,560	61,750	59,050	59,550	62,280	116.1	61,350	58,130	58,630
5月平均	67,410	121.2	66,310	66,880	64,710	65,210	66,450	120.3	65,890	63,210	63,710

JOX取引実績

			月間総取引量（*キロリットル）	前月比	月間平均価格（円/kl）	前月比
5月	ガソリン	京浜	7,000	▲1,800	69.6	6.7
		阪神	3,000	-	69.3	-
		大西	3,000	-	67.0	-
	灯油	京浜	5,600	600	65.1	6.2
		大西	11,400	6,400	63.2	4.9
	軽油	京浜	7,000	6,200	70.1	8.1
		川崎	6,588	576	67.8	5.4
	LSA重油	京浜	400	-	RIMリンク	-

原油・石油スワップ取引　最終決済価格

	原油	ガソリン				灯油				軽油			
	ブラッツドバイ（*キロリットル）	バージ（*キロリットル）	G税込（円/kl）	ローリー（*キロリットル）	G税込（円/kl）	ブラッツバージ（*キロリットル）	（円/kl）	ブラッツローリー（*キロリットル）	（円/kl）	ブラッツバージ（*キロリットル）	軽油引取税込（円/kl）	ブラッツローリー（*キロリットル）	軽油引取税込（円/kl）
12月	43,780	58,580	112.4	59,140	112.9	60,340	60.3	60,820	60.8	60,070	92.2	58,750	90.9
1月	46,150	64,220	118.0	61,860	115.7	66,070	66.1	64,110	64.1	62,730	94.8	61,640	93.7
2月	42,590	65,470	119.3	60,970	114.8	71,590	71.6	64,740	64.7	63,560	95.7	60,600	92.7
3月	41,850	61,480	115.3	57,760	111.6	65,400	65.4	62,390	62.4	62,100	94.2	59,220	91.3
4月	46,130	62,280	116.1	60,830	114.6	60,940	60.9	62,170	62.2	62,840	94.9	62,200	94.3
5月	51,360	66,450	120.3	67,410	121.2	65,960	66.0	66,790	66.8	68,330	100.4	67,700	99.8
前月比	5,230	4,170	4.2	6,580	6.6	5,020	5.0	4,620	4.6	5,490	5.5	5,500	5.5

当社は、計量機検定／修理・地下タンク漏えい検査・地下タンク老朽化対策工事・各種施工等、充実のサービスで給油所運営をサポートいたします。
日本スタンドサービス株式会社
無料お見積り・お問い合わせは
0120-016-889
◆ホームページ　http://www.nssk.co.jp/
◆楽天市場店　http://www.rakuten.co.jp/auc-nssk/
日本スタンドサービス　検索
◆自社計量機販売　◆給油機器販売　◆計量機検定　◆計量機修理
◆中古計量機買取・販売　◆中古部品販売　◆地下タンク漏えい検査
◆移動タンク漏えい検査　◆高精度油面計　◆電気防食システム工事
◆給油所新設工事　◆給油所廃止工事　他　お気軽にご相談ください。
大阪本社　〒578-0911 大阪府東大阪市中新開2丁目11-17
TEL.072-968-2211　FAX.072-968-3900
東京営業所　〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2丁目21-6
TEL.03-5721-4789　FAX.03-5721-4787

農林漁業部会特集

５年目を迎えた農林漁業部会特集。今期はテーマに捉われず、農林漁業部会にとって関連の深いトピックスを、深刻な課題、明るい話題を取り混ぜて取り上げる。第１回となる今回は、今年から来年にかけて船舶・海運業界、そして石油精製業界など多くの事業者にとって大きな課題となりそうな、ＩＭＯによる硫黄分規制強化問題、いわゆるマルポール条約問題を取り上げる。

ＩＭＯ規制強化の概要と石油業界の対応　18年度第1回

硫黄分0.5％以下低減、迫るリミット

“3つの対応策”どう選択

国際海事機関（ＩＭＯ※別掲）は2016年10月に開催した第70回「海洋環境保護委員会」で、20年から船舶用燃料油への硫黄分濃度規制を強化することを決めた。

大気汚染防止対策として船舶からの硫黄酸化物（SO_x）の排出を削減することを目的に、船舶燃料中の硫黄分濃度を規制するもので、今回の規制強化の最終到達点である20年1月1日からは、規制が緩やかな一般海域においても硫黄分の規制値を現行の3・5％以下から0・5％以下へと引き下げることが義務付けられる。直接関係する船舶・海運業界はもちろんのこと、燃料を供給している石油業界にとっても影響は避けられない。

ＩＭＯによる船舶からの海洋汚染防止に関する規制は、マルポール条約（ＭＡＲＰＯＬ73／78＝73年に採択され78年に発効という意味）として知られる「船舶による海洋汚染の防止のための国際条約」に盛り込まれている。マルポール条約は、船舶の航行に起因する環境汚染の防止が目的で、ＩＭＯではこれに基づく大気汚染防止対策として、船舶から排出されるSO_xの排出削減のため、原因となる船舶用燃料油に含まれる硫黄分の濃度を段階的に低減させる規制強化策を08年に採択した。

規制は排出規制海域（北米、米国カリブ海、北海・バルト海）と一般海域（排出規制海域を除く全海域）に分けられ、排出規制海域では10年6月までが硫黄分1・5％以下、14年までが1・0％以下で、15年以降はすでに0・1％以下への低減が達成されている。

一方、日本も含む一般海域では、11年までが4・5％以下、19年までが3・5％以下とされ、今回の規制強化の最終到達点である20年1月1日には、船舶用燃料油に含まれる硫黄分の濃度を0・5％以下に低減させることが義務付けられる。海運業界における〝2020年問題〟として関係者が頭を痛める、硫黄分の規制値達成の期限が、ちょうど1年半後に迫っているということだ。

硫黄分0・5％以下という規制値を達成するための対応策として、現時点では大きく分けて3つの方法が提起されている。

1つ目は燃料油を生産する石油（精製）業界側の対応となる。船舶用燃料油に含まれる硫黄分を直接規制値以下に引き下げるというもので、低硫黄化のために重油脱硫・分解装置を新たに導入するか、低硫黄原油に変更するか、どちらかの対応が必要となる。コスモ石油が先ごろ、堺製油所のコーカー増強を打ち出したのは、このうちの前者の対応となる（別掲）。

2つ目は船舶側の対応。燃料油を低硫黄化せずに排ガス中のSO_xを規制値以下に低減させるための排ガス浄化装置（スクラバー）を船舶に搭載するというもの。スクラバーの搭載費用が1台数億円かかるうえ、メンテナンス費用や硫黄分除去後の残留物（スラッジ）の処理にも費用がかかる。さらに、それなりの大きさと重さを伴うスクラバーの搭載は一部の大型船以外には不向きとされ、万能の対応策とは言い難い。

排ガス浄化装置（スクラバー）＝出展「三菱重工技報 Vol.53No.2（2016）船舶・海洋特集」

3つ目も船舶側の対応。LNGなどSO_xなどの少ない代替燃料に切り替えるという対応策だが、LNG燃料に対応したエンジンの搭載や燃料タンクの設置など、これも多大なコスト負担を伴うし、LNGを船舶に供給するための設備が整っていないとの指摘もある。ただその一方で、LNGへの切り替えは他の環境規制物質の低減にも有効な根本的な対応策との指摘もあり、一概に否定的な見方はできない。

規制値達成のタイムリミットは20年1月1日だが、前述のどの方法を選択するにしても、当然のことながら準備には相当の時間を要する。その意味では、残された1年半という時間は、決して長いとは言えない。スクラバーを搭載する船舶がどの程度の船数になるか、LNG船がどの程度導入されるか、船舶側の対応もまだ明確にされているとは言えない。そうした中で、コスモ石油はいち早くコーカー増強という具体策を示した。他の精製元売がどのような方針を示すのか、石油業界側の対応が注目される。

ＩＭＯ規制強化への対応策として指摘されている3つの方法のうち、2つは船舶側の対応、1つが石油精製元売としての対応となる。船舶側の対応として指摘されているスクラバー搭載やＬＮＧ船導入の状況によって、低硫黄化した船舶用燃料油の需要も大きく左右されるため、精製元売としてもコスト負担を伴う低硫黄化に向けた諸施策にはなかなか踏み切れないのが現状だ。

こうした中、いち早く自社としての取り組みの方向性を示したのがコスモ石油。同社の親会社に当たるコスモエネルギーホールディングスの桐山浩社長は、特約店店主を集めた今年1月の新年会の席で2020年の船舶用燃料油にかかわる硫黄分規制強化問題に触れ、「対応を誤ると競争力に大きな差が出る。当社としては堺製油所のコーカーを増強し、競争力を持ちながら対応していきたい」として、コーカー増強を柱とした施策によりＩＭＯの規制強化に対応していく方針を示した。

コスモ石油堺製油所は原油処理能力が10万㌬／日。2010年4月に営業運転を開始したコーカー（重質油熱分解装置）の処理能力は、開始当時が2万5千㌬／日。その後2万9千㌬／日まで能力を増強し、これをさらに3万1千㌬／日まで増強する計画を打ち出している。

コスモエネルギーホールディングスは今年度からスタートした「第6次中期経営計画（18～22年度）」の中で、石油精製・販売事業の柱の1つに「ＩＭＯ規制への対応」を掲げ、コーカー増強に1110億円、ＩＭＯ規制強化対応としてＦＣＣ（流動接触分解装置）から排出されるボトム留分の触媒除去装置に40億円の設備投資を打ち出し、この成果として千葉製油所パイプライン活用などと合わせて240億円の収益改善を見込んでいる。いわば、ＩＭＯ規制強化を追い風と捉えた積極策といえる。

これに対して他の精製元売がどのような施策を打ち出すのか、動向が注目される。

コスモ石油の取り組み

堺製油所コーカーを増強

コスモ石油堺製油所のコーカー

菅原部会長インタビュー

注視される脱硫コスト負荷方法

もともと軽油やA重油は問題なく対応できる。問題はやはりC重油。C重油からサルファー分を除去するためにかかるコストがどの程度なのか、それがどのような形で製品に転嫁されるのか。情報が全然出てこないのでどうなるかわからないし、基本的には待ちの姿勢だが、この点は気になる。

多くの販売業者が最も心配するのも、やはりこの、コストがどのように負荷されるかという点。ガソリンや軽油にまで満遍なくコストが負荷されるようなことになれば、販売業者にとっても他人事ではなくなる。元売もこの規制強化に対応するための脱硫コストがどの程度かかるか、現時点ではわからないのではないか。

もともとは、2020年の1月1日に船舶の燃料タンクに入っている燃料油の硫黄分が0・5％以下であることが求められると言われていたが、ここへきて、1月1日に0・5％以下の燃料油を給油できる体制になっていればいいという見方も出ている。しかし、こうした変わり目の時には監督官庁の監視の目は厳しいはず。こういうことは甘く考えないほうがいい。

スケジュール感としては、来年のいまごろはきちんとした方針が出ていなければ間に合わないが、最終的に元売はクリーンな、規制をクリアした製品を供給できる体制を整えるはずで、我々販売業界としては20年1月1日に元売が供給するものが規制に適合していると信じるしかない。

「サルファー除去のコストが製品にどう転嫁されるかが気になる」と語る菅原部会長

国際海事機関とは

国際海事機関（ＩＭＯ＝International・Maritime・Organization）とは、海上の安全、船舶からの海洋汚染防止など海事分野の諸問題についての政府間の協力を推進するために設立された国連の専門機関の1つで、本部は英国（ロンドン）にあり、2017年1月現在の加盟国は172ヵ国（日本は設立時より参加）、香港など3地域が準加盟国となっている。

1948年、国連海事会議で政府間海事協議機関（ＩＭＣＯ）設置のための条約が採択された。ただ、発効には100万㌧以上の船腹を有する7ヵ国の受諾が要件となっていたが、当時、戦後の対日平和条約の締結がなされておらず日本がこの会議に参加できなかったため発効しなかったが、58年3月に日本が同条約を受託することで発効要件が満たされたため、58年3月にＩＭＣＯが設立された。

82年に現在の国際海事機関に改称。海上の安全、通商の自由、航行の効率化、船舶による海洋汚染防止に関する協議や勧告、海運に関する情報交換や条約の起草などを任務とする。

船舶が国際的に活動することから、海事分野の取り組みは必然的に国際的なものとなるため、海事分野のルールは各国が連携・協力して全世界的なものとして定められてきた。すでに19世紀後半には、主要な海運国が中心となり、各種の技術的事項や灯台業務、海難救助などの海上安全の確保を目的とする国際条約の取り決めなどを行ってきた。

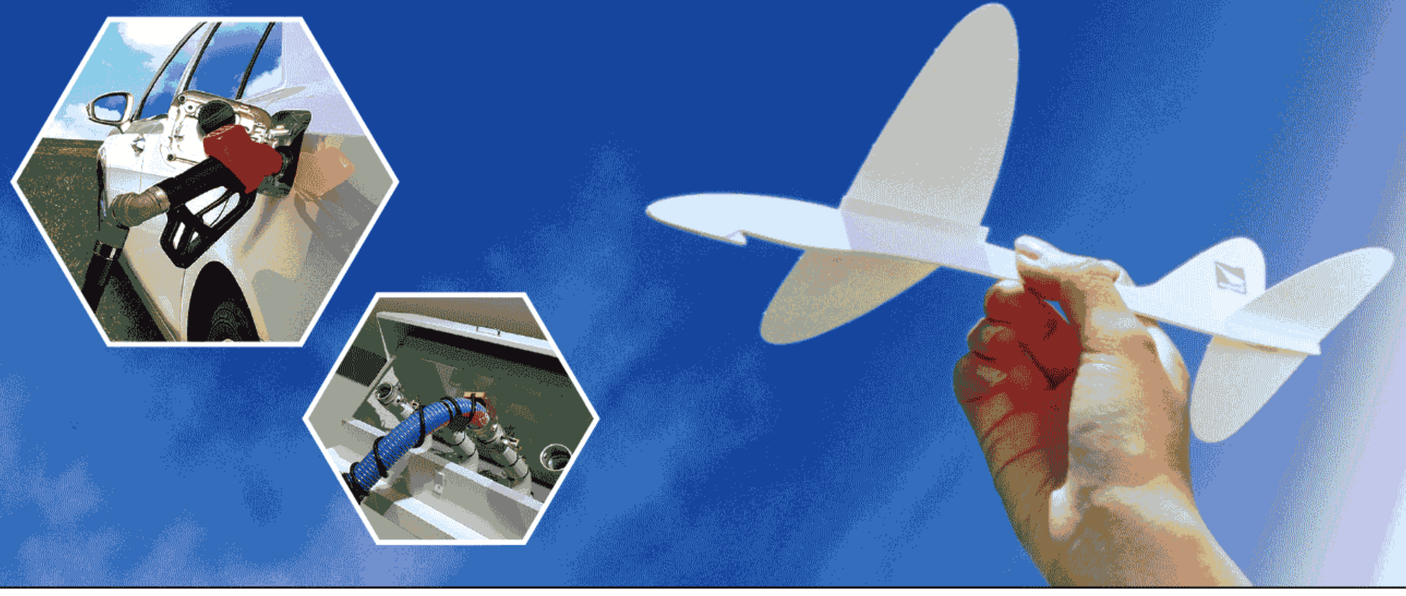
例えば1912年4月に発生し世界に大きな衝撃を与えたタイタニック号沈没事故は、船舶の安全に関する措置の国際的な取り決め策定へ向けた大きなきっかけとなり、14年1月に「1914年海上人命安全条約（1914SOLAS条約）」が採択されている（第一次世界大戦の影響により未発効）。現在、このようなルール作りはＩＭＯで実施しており、世界の主要な海運国・造船国である日本も、国際機関の場で積極的に活動を行い、世界の海事分野のルール作りに積極的に貢献している。

TATSUNO

TATSUNO Challenge

一歩先行く「環境づくり」

タツノはこれからも、環境保全、給油の安全性、
経済性への貢献を通じて、より良きパートナーとなるために、
さらなる努力を重ねてまいります。



新製品

L100R　TOWER-NX D70S　SUNNY-NX D70S

ベーパー液化回収装置

株式会社タツノ　本社／〒108-8520 東京都港区三田三丁目２番６号　050-9000-0567　http://www.tatsuno.co.jp/